資料２

分科会の設置及び調査等の進捗状況について

資料２－１　1923関東大震災第２編
資料２－２　1923関東大震災第３編
資料２－３　1858飛越地震

資料２－１

平成20年2月8日

「1923関東大震災－第２編－」報告書進捗状況について

分科会主査　鈴木　淳

H18.12.5	第１回開催（内閣府）	構成及び執筆分担の検討
H19.2.20	第２回開催（内閣府）	担当原稿の検討
H19.2～8	原稿執筆	
H19.11.8	第３回開催（内閣府）	担当原稿の検討
H19.12.20	第４回開催（内閣府）	担当原稿の検討
H20.2.29	第５回開催（内閣府）	報告書案の検討＜最終回＞
	小委員会で報告書案を審査	
	専門調査会で報告案を審査	
	最終原稿確認を経て校了	
	報告書（200部）完成	

２　分科会委員

○鈴木　　淳	東京大学大学院人文社会系研究科准教授
佐藤　健二	東京大学大学院人文社会系研究科教授
関沢　　愛	東京大学大学院工学系研究科教授
武村　雅之	鹿島建設（株）小堀研究室次長
＊北原　糸子	神奈川大学教授
西田　幸夫	東京理科大学総合研究所ＣＯＥ技術者
岡田　　直	横浜都市発展記念館調査研究員
土田　宏成	神田外語大学講師
加藤　智康	國學院大学大学院文学研究科
嶋　　理人	東京大学大学院人文社会系研究科
中澤　俊輔	東京大学大学院法学政治学研究科
吉田　律人	國學院大学大学院文学研究科

（○：分科会主査、※：専門委員会座長、＊：専門調査会小委員会座長）

事務局

＜内閣府＞

山谷　英之	政策統括官(防災担当)付災害予防担当企画官
岩間　　功	政策統括官(防災担当)付災害予防担当参事官付主査
大石　真裕	政策統括官(防災担当)付災害予防担当参事官付

＜(財)日本システム開発研究所＞

山田美由紀	研究部第二研究ユニット
中山　幹生	研究部第二研究ユニット

3　報告書の構成

はじめに……（武村）

第１章　避難・消防・医療
　第１節　避難と消防……（関沢、西田）
　　１　火災の延焼と人々の避難
　　(1) 火災の延焼動態の時間的変化
　　(2) 延焼状況と避難の様子
　　ａ.避難場所　ｂ.火災の延焼にともなう避難行動　ｃ.避難場所での状況
　　ｄ.避難者の動き
　　２　延焼状況と消防活動
　　(1) 震災当時の消防力
　　ａ.東京市部の消防の組織と装備　ｂ.消防以外の防災関係の組織
　　(2) 火災の延焼と消防活動
　　ａ.消防活動障害の発生…通信連絡の途絶と水利の破損
　　ｂ.火災の延焼状況と公設消防による消火活動
　　ｃ.公設消防以外の消火活動（軍隊、在郷軍人会や青年団など地域の組織など）
　　ｄ.公設消防以外の消火活動（民間の自衛消防活動）
　　３　横浜市における状況
　　(1) 避難
　　ａ.建物内避難　ｂ.傾斜地への避難　ｃ.船舶への避難
　　(2) 消防
　第２節　医療救護……（北原）
　　１　東京における医療救護について
　　(1) 東京府
　　(2) 警視庁
　　(3) 東京市における公私の救療活動
　　(4) 日本赤十字社
　　(5) 他府県からの医療救護
　　ａ.長野日赤支部、その他の医療救援　ｂ.大阪府　ｃ.群馬県の救援活動
　　(6) 診療班設置から震災救護医療の終焉へ
　　(7) 大学病院・済生会病院・実費診療所の救療体験から
　　ａ.新潟医科大学の救援活動　ｂ.金沢医科大学　ｃ.慶応大学病院
　　ｄ.恩賜財団済生会　ｅ.実費診療所
　　２
　第３節　鉄道と電力の復旧……（嶋・鈴木）
　　１　鉄道の復旧
　　(1)市内交通の復旧
　　(2)郊外交通の復旧
　　(3)長距離交通の復旧
　　(4)復旧に協力した機関
　　２　電力の復旧
　　(1)東京電灯
　　(2)東京市電気局
　　(3)その他の事業者

第２章　国の対応
　第１節　内閣の対応……（土田）
　　１　当時の統治機構
　　(1) 国政全般
　　(2) 中央と地方の行政組織
　　(3) 本節の記述に関わる法令･制度

２　加藤首相の死去から山本内閣の成立まで
(1) 地震発生の前後
(2) 初期救護・警備体制の成立
３　山本内閣の成立
(1) 警備体制の強化
(2) 山本内閣の救護方針
(3) 民生と経済の安定化
４　復興への道筋
(1) 復興へ向けた人心の安定化
(2) 帝都復興審議会の成立
第２節　軍隊の活動‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥（吉田）
１　災害と軍隊
(1) 陸軍・海軍の組織
(2) 災害時の軍隊の救護活動
ａ.軍隊の「災害出動」制度　ｂ.「災害出動」の限界
(3) 東京衛戍総督部の廃止
２　地震発生と軍隊の対応
(1) 1923年９月１日（土）午前の陸軍・海軍の状況
ａ.在京部隊の状況　ｂ.海軍主力部隊の状況　ｃ.中央機関の状況
(2) 在京部隊の初期対応
ａ.地震発生と在京部隊　ｂ.軍事施設の焼失
(3) 千葉県・神奈川県での軍隊の活動
ａ.千葉県駐屯部隊の対応　ｂ.下志津演習場の部隊　ｃ.横須賀鎮守府の状況
(4) 中央機関の対応
ａ.東京衛戍司令部　ｂ.陸軍省・参謀本部・教育総監部　ｃ.海軍省・海軍軍令部
３　戒厳令の適用と警備態勢の確立
(1) 情報の伝達と収集
(2) 戒厳令の一部適用
ａ.下町方面への軍隊の出動　ｂ.関東戒厳司令部の設置
(3) 隣県部隊の集結と警備配置
(4) 海軍の対応
４　罹災地外からの応援
(1) 応援部隊の全体像
(2) 地方部隊の反応―第十三師団の例―
(3) 各鎮守府・連合艦隊・練習艦隊の対応
(4) 在郷軍人会
５　治安の回復と部隊の撤収
(1) 救援物資の輸送・供給
(2) 陸軍震災救護委員会の設置
(3) 陸軍・海軍部隊の撤収
(4) 軍隊の活動に対する評価
第３節　警察の対応‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥（中澤）
１　各警察組織の対応
(1) 震災以前の制度・組織
(2) 内務省警保局
(3) 警視庁
(4) 府県警察
ａ.被災地　ｂ.被災地以外の府県
(5) 組織間の情報伝達
２　各種活動の経過
(1) 避難民保護
(2) 人心安定

ａ.流言蜚語取締　ｂ.暴利取締
(3) 犯罪取締
(4) 衛生
３　社会との相互作用
(1) 自警団
(2) 警察に対する評価
ａ.社会の評価　ｂ.警察の自己評価

第３章　地域の対応
第１節　東京府・市の対応……（加藤）
１　地震発生直後の対応
(1) 東京府庁の対応
(2) 東京市役所の対応
(3) 区役所の対応
２　避難民の収容
３　飲料水・食糧の供給
(1) 飲料水の供給
ａ.水道の被害と復旧　ｂ.飲料水の供給
(2) 食糧の供給
ａ.混乱期　ｂ.配給体制形成後
４　応急復旧
(1) 橋梁
(2) 道路
５　衛生施設
(1) 死体処理
(2) 屎尿処分
(3) 塵芥掃除
６　ボランティアの活動
(1) 町内会
(2) 青年団、在郷軍人会
(3) 来援救護団
第２節　横浜・神奈川での救援・救済対応……（岡田）
１　震災当時における横浜市の行政機関
２　行政による救援・救済体制の確立
３　医療救護(救療)対応
４　飲料水の供給
５　物資(食糧)の供給
６　死体の処置
７　民間企業・団体による救援・救済の活動
(1) 汽船会社
(2) 日本赤十字社
(3) その他
８　海外からの救援・救済および外国人に対する救援・救済
９　横浜市周辺郡部における救援・救済対応
(1) 久良岐郡
(2) 橘樹郡
(3) 都築郡
(4) 鎌倉郡
10　その他神奈川県内における救援・救済対応
(1) 横須賀市・三浦郡
(2) 高座郡・中郡
(3) 足柄下郡・足柄上郡

(4) 愛甲郡・津久井郡
11　救援・救済の実際　～水道山付近と横浜公園での事例
第３節　千葉県での対応……（土田）
１　被害と混乱
(1) 安房郡
(2) 君津郡・市原郡
(3) それ以外の地域
(4) 船橋送信所問題
２　救護・警備活動
(1) 県の活動
ａ. 初動　ｂ. 食糧供給　ｃ. 医療・衛生　ｄ. 警備
(2) 安房郡の活動
(3) 民間の活動
ａ. 千葉医科大学病院　ｂ. 日本赤十字社千葉支部
３　県外での救援活動

第４章　震災直後の混乱による被害の拡大
第１節　流言蜚語……（佐藤）
１　「流言」対象化の困難
(1) 流言の気づきにくさ
(2) 流言の押さえにくさ
(3) 流言のたどりにくさ
２　流言蜚語の実態　警察に集約された記録を手がかりに
(1) データの整理
(2) 流言の発生と終熄
(3) 流言はどのように流れてきたか
(4) 流言の時間
３　増殖と昂進のメカニズム
(1) 情報の「空白」
(2) 情報の分断もしくは断片化
(3) 解釈の生産者たち
(4) 解釈の暴走と増殖
(5) 歴史をたぐり寄せる
(6) 都市の不安
(7) 被災者の主体性
第２節　殺傷事件……（鈴木）
１　殺傷事件の概要
(1) 朝鮮人への迫害
(2) 中国人殺傷事件
(3) 日本人の殺傷
２　略奪事件と警備　（サンフランシスコ地震に言及）

コラム　関東大震災の地方への避難民―群馬県の場合―……（北原）
コラム　川崎町における被害と救援……（北原）
コラム　伊東市における被害と救援……（金子）
コラム　熱海市における被害と救援……（栗木）
コラム　共助が支えた救済……（武村）
コラム　「天災日記」に見る流言飛語と戒厳令……（武村）
コラム　「河井清方日記」に見る余震と流言……（武村）
コラム　工場の被害と救援……（鈴木）
コラム　殺傷事件の検証　(1) 震災直後の動き　(2) 戦後の研究……（鈴木）

おわりに（まとめと教訓）・・（鈴木、事務局）

資料編

事実関係は主に当時の公的な記録によって描き、必要な場合にはその史料的な限界にも触れる。
一方で、当局者や被災者の実情を描く意味も大きいので、このためには典拠を明示して体験記等を利用する。

4　その他報告事項　　特になし

資料２－２

平成20年2月8日

「1923関東大震災－第３編－」報告書進捗状況について

分科会主査　室﨑　益輝

H19.12.25	第１回開催（内閣府）	構成及び執筆分担の検討
H20.2.26	第２回開催（内閣府）	担当原稿の検討
H20.3～	原稿執筆	
	第３回開催（内閣府）	担当原稿の検討
	第４回開催（内閣府）	担当原稿の検討
	第５回開催（内閣府）	報告書案の検討＜最終回＞
	小委員会で報告書案を審査	
	専門調査会で報告案を審査	
	最終原稿確認を経て校了	
	報告書（200部）完成	

２　分科会委員

○室﨑　益輝	消防研究センター理事長
冨樫　光隆	明治大学情報コミュニケーション学部教授
寺西　重郎	日本大學商学部教授
武村　雅之	鹿島建設（株）小堀研究室次長
佐藤　健二	東京大学大学院人文社会系研究科教授
※伊藤　和明	防災情報機構特定非営利活動法人会長
＊北原　糸子	神奈川大学教授
関沢　　愛	東京大学大学院工学系研究科教授
真野　洋介	東京工業大学大学院社会理工学研究科准教授
長瀬　　毅	流通経済大学経済学部准教授
吉川　　仁	防災アンド都市づくり計画室代表
田中　　傑	芝浦工業大学大学院工学研究科

（○：分科会主査、※：専門委員会座長、＊：専門調査会小委員会座長）

事務局

＜内閣府＞

山谷　英之	政策統括官(防災担当)付災害予防担当企画官
岩間　　功	政策統括官(防災担当)付災害予防担当参事官付主査
大石　真裕	政策統括官(防災担当)付災害予防担当参事官付

＜(財)日本システム開発研究所＞

山田美由紀	研究部第二研究ユニット
中山　幹生	研究部第二研究ユニット

3　報告書の構成

第１編　復興計画の策定・・・（吉川、室崎）
第１章　帝都復興計画
　　コラム　復興に関する思潮や論争
第２章　横浜その他都市の復興計画
　　コラム

第２編　復興事業の展開
第１章　市街地、住宅の復興・・・（真野、田中）
　　（１）区画整理（区画整理事業、バラック市街地、田園都市整備、その他）
　　（２）公共施設（道路・運河、橋梁、公園、学校、卸売市場、その他）
　　（３）住宅再建（住宅再建の過程、復興住宅の建設）
　　コラム　都市の不燃化と建物の耐震化・・・・
　　コラム　居住者の移動で見た復興過程・・・・
　　コラム　バラック装飾・・・・・・・・・・・・

第２章　産業と経済の復興・・（冨樫、寺西、長瀬）
　　（１）経済・産業
　　（２）金融・保険
　　コラム　地方経済に与えた影響
　　コラム　関東大震災と昭和大恐慌
　　コラム　民間企業の被災と復興：鹿島組の例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（武村）

第３章　生活と文化の復興・・・（佐藤）
　　（１）生活（社会事業、その他）
　　（２）文化（教育／大学の移転含む、娯楽、その他）
　　コラム　関東大震災・震災復興記念館
　　コラム　神田明神の復興・・（清水）
　　コラム　関東大震災の震災遺産
　　コラム　東京大学地震研究所の誕生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（伊藤）

4　その他報告事項　　特になし

資料２－３

平成20年2月8日

「1858飛越地震」報告書進捗状況について

分科会主査　伊藤　和明

H19.8.23	第１回開催（富　山）	構成及び執筆分担の検討
H19.10.23	第２回開催（富　山）	担当原稿の検討
H20.2.6	第３回開催（富　山）	担当原稿の検討
	第４回開催（富　山）	担当原稿の検討
	第５回開催（富　山）	報告書案の検討＜最終回＞
	小委員会で報告書案を審査	
	専門調査会で報告案を審査	
	最終原稿確認を経て校了	
	報告書（200部）完成	

２　分科会委員

※○伊藤　和明　　防災情報機構特定非営利活動法人会長
竹内　　章　　富山大学理学部地球科学科教授
岡本　正男　　全国治水砂防協会専務理事
井上　公夫　　財団法人砂防フロンティア整備推進機構参与・技師長
前田　英雄　　富山県郷土史会副会長
菊川　　茂　　立山カルデラ砂防博物館学芸課
丹保　俊哉　　立山カルデラ砂防博物館学芸課
高野　靖彦　　立山カルデラ砂防博物館学芸課
＊北原　糸子　　神奈川大学教授
（○：分科会主査、※：専門委員会座長、＊：専門調査会小委員会座長）

執筆協力者
藤井　昭二　　富山大学名誉教授
田添　好男　　岐阜県歴史資料館歴史資料部長

事務局
＜内閣府＞
山谷　英之　　政策統括官(防災担当)付災害予防担当企画官
大石　真裕　　政策統括官(防災担当)付災害予防担当参事官付
＜(財)日本システム開発研究所＞
山田美由紀　　研究部第二研究ユニット
岩渕　祐二　　研究部第二研究ユニット

3　報告書の構成

はじめに……（伊藤）

第１章　地震像と活断層
・震源域周辺の地勢……（菊川）
・飛越地震の地震学的特徴……（竹内、丹保）
・跡津川断層について……（竹内、丹保）

第２章　災害の概要
①平野部の被害
・常願寺川流域の被害－家屋の倒壊、人的被害……（高野）
・神通川流域の被害－家屋の倒壊、人的被害……（田添、高野）
・その他の地域の災害－大聖寺など
・液状化災害……（藤井）
②大規模土砂災害……（井上）
・大鳶・小鳶の崩壊－カルデラ内に堆積、天延ダムの形成
・第一の決壊（湯川・M5.7の衝撃？）
・第二の決壊（真川・富山平野大洪水）
③古文書・古絵図に残る記録……（高野）
（「地水見聞録」「立山変事録」「安政大地震記」ほか）
（「立山大鳶山抜絵図」「大鳶山地震絵図」ほか）

第３章　救済から復興へ
・時代背景……（前田）
・富山藩による救済と復興……（前田、高野）
・加賀藩による救済と復興……（前田、高野）
・飛騨国における救済と復興……（田添）

第４章　砂防事業の展開……（岡本）
・常願寺川の変身⇒暴れ川に
・富山県による砂防事業（1906年）
・国の直轄による砂防事業（1926年～）
・砂防事業発祥の地・赤木正雄の功績
・頻発する洪水・土砂災害
・常願寺川砂防の現況（富山平野を守るために）

第５章　まとめと教訓

4　その他報告事項　　特になし